

患話休題

かんわきゅうだい

43



院長 真崎 雅和



一つの気道

気道というのは、出入り口である鼻から通路である咽頭・喉頭・気管・気管支と、先端の肺胞といわれる小さな風船までをいいます。肺胞では血液との間で酸素を渡し、二酸化炭素を受け取るガス交換が行われます。

気管支・気管を「下気道」、鼻・咽頭・喉頭を「上気道」と区別して呼ぶ場合があり、例えば単純な風邪は上気道炎などと呼ばれます。上気道は主に耳鼻科が担当し、下気道は呼吸器科が担当するのが一般的です。

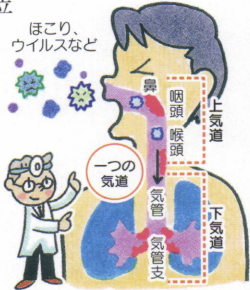
気道は空気の流れ道ですが呼吸に伴い空気中のゴミや菌・ウイルスと一緒に吸い込まれるので、気道はそれらを途中でとらえて外へ吐き出す働きを兼ね備えています。この働きは「上気道」と「下気道」に大きな違いはなく、粘膜の構造にも大きな違いはありません。構造的に似ているということは「上気道」と「下気道」の病気の原因や病態も似通っているというので、治療の原理も大きな違いはありません。このことから、従来は鼻の病気が「上気道」の病気の病気がばらばらに治療されてきましたが、上も下も一つの気道として、一体として治療していく必要があるという認識がされるようになりました。上流・下流ばらばらに工事していたのでは治水工事がうまくいかないのと同じ理屈です。

典型的な例として副鼻腔気管支症候群、蓄膿症

と難治性の気管支炎の合併は古くから知られています。成立

原因はいくつかあるにせよ、結果的には気道粘膜全体のゴミ排泄機能の低下であることが分かっています。上も下も同時に治療しなければお互いの治療効果が上がらないことが分かっています。

最近一つの気道としての治療が重要視されているのがアレルギー性鼻炎との合併です。アレルギー性鼻炎の2〜3割に喘息が合併し、喘息の7割にアレルギー性鼻炎が合併しているといわれています。この場合も鼻・気管支ともに治療した方が、互いによい影響をもたらすことが分かってきました。特殊な例としては、治りにくい、厄介な副鼻腔炎があり鎮痛剤を服用すると激しい喘息を引き起こすアスピリン喘息や、しつこいゼロゼロとした咳を伴う好酸球性副鼻腔炎なども知られています。これらは鼻から発見されることが多く、また鼻の治療により咳も改善することが分かっています。別稿にもありましたが長引く咳の原因のひとつに副鼻腔炎が少なくない割合を占めており、このことから一つの気道としての鼻・喉の治療の重要性が再認識されてきています。



急患随時受付

診察時間が近づいたことをお知らせする
メールサービス
約30分前
ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診